



[HOME](#) | [ルール](#) | [競技規則](#) | 平成20年度(2008-2009)U-15ジュニアラグビー競技規則改定について

ルール

RULES

競技規則

平成20年度(2008-2009)U-15ジュニアラグビー競技規則改定について

「ジュニアラグビー競技規則」お詫びと訂正

平成20年8月6日、本ページを公開いたしました。以下の箇所について誤記がございました。当該箇所を訂正するとともに、慎んでお詫び申し上げます。

<訂正した箇所>

「U15ジュニアラグビーの競技規則」第17条、19条、20条

(8月19日)

はじめに

この度、(財)日本ラグビーフットボール協会ではU-15(15-13歳)の中学生プレーヤーに採用している「U-15ジュニアラグビー競技規則」の一部を改定することといたしますのでお知らせいたします。関係者各位におかれましては改定の趣旨等をご理解いただき、対応の程宜しくお願い申し上げます。

「改定の背景・趣旨」

(財)日本ラグビーフットボール協会では平成18年度よりU-15(15-13歳)のラグビープレーヤーにとって最良、かつ安全性を確保できることを大原則にラグビー競技の円滑な実施及び公平な運営の推進を目指し、現場の状況等に於いて同競技規則を継続的に検証・検討し、改善を進めております。また、先の国際ラグビーボード(以下「IRB」という。)理事会において13項目の試験的実施ルール(以下「ELV」という。)を2008年8月1日から実施することを決定いたしました。

このような状況下で、当普及育成委員会では、IRBが目指すラグビー競技の健全な発展のための方向性を見据え、U-15(15-13歳)のラグビープレーヤーにとってのより良い競技の実現を目指しつつ、U-12(12歳以下)のミニラグビーからU-15のジュニアラグビー、そして高校生以上のフルラグビーという年代間の整合性についても十分に考慮し、協議・検討を重ねた結果、平成20年度(2008-2009)については下記の事項について改定することといたしました。

「実施時期」

2008年-2009年U-15ジュニアラグビー競技規則は、(財)日本ラグビーフットボール協会主催における大会では、2009年(平成21年)1月に開催される「第14回全国ジュニアラグビー大会」から適用することといたします。また、三地域協会においては、原則として2008年(平成20年)9月1日から適用することといたします。なお、三地域協会の主催ゲームにおいては、本競技規則の適用日を2008年(平成20年)9月1日-2009年(平成21年)1月1日までの間の任意の期間において、各地の実情を考慮して別途、定めることができることといたします。

第一部「U-15ジュニアラグビーの競技規則」

「基本原則」

15歳-13歳時期(以下「U-15」という。)の中学生プレーヤーの試合に適用するU-15ジュニアラグビーの競技規則は、国際ラグビーボード(IRB)が定める競技規則に準拠する。また19歳未満プレーヤーのための標準競技規則、及び日本ラグビーフットボール協会の定める高専、高校以下のための日本国内特別競技規則に関してはその趣旨を認識し準拠する。その中でU-15に適用する独自の競技規則については本U-15ジュニアラグビー競技規則において規定する。

〔ELVに関する確認事項〕 (新設)

IRBが2008年8月1日から実施する試験的実施ルール(以下「ELV」という。)については、原則として適用する。ただし、選手の安全確保や習熟度などを考慮し、ELV 2項、3項、6項は不適用とし、本年度のU-15ジュニアラグビー競技規則にて規定し禁止する。

《確認》 U-15で採用するELVは、4、5、7、8、9、10、11、12、13項である。なお、ELV1はU-15では直接的な関連性はあまりないので特に記載せず、従前どおりの運用とする。

《再確認事項》

- (1) ELV2,3,6項は不適用とする。
- (2) U-15で採用するELVは、4,5,7,8,11,13項である。
- (3) ELV9,10,12項は原則として適用し、U-15独自のルールについては継続する。
- (4) ELV1項は、U-15では直接の関連性は少ないので特に記載せず、従来通りの運用とする。

第3条 プレーヤーの人数

1. プレーヤーの人数
双方12名以内のプレーヤーによって行う。
2. 登録プレーヤー・リザーブ登録・交替
チームのメンバー登録は22名とし、ハーフタイムに少なくとも4名の交替を行うことを原則とする。その他、試合途中において登録されたリザーブプレーヤー全員の交代を認める。リザーブの登録は必ずフロントローのプレーヤーを含めることとする。
3. 一時的交替と応急処置「安全対策・指導措置」(**一部追加**)
出血の有無に関わらず、プレーヤーが負傷し応急処置、或いは医師の治療を受ける必要があると判断される場合は、一時的交替を認める。
〔注意〕 レフリーは、プレーヤーが負傷した場合は、そのプレーヤーの安全を最優先し、直ちに応急処置、或いは医師の治療を受けるよう指導する。

【補足説明】

第20条7項に記載していた負傷したプレーヤーに対する応急処置、医師の治療の項目を本項の〔注意〕項目に移動し記載いたします。

注意事項

- (i) 登録プレーヤー数と最低交替人数の特例措置
但し、チームのメンバーが22名に満たない場合は、プレーヤーの安全確保を優先の上、三地域協会の事前の承認の下、その現状を考慮し主催する各協会の決定により別途登録人数、交替人数を規定することができる。
- (ii) 年代別(エージ制)・体重制などの導入
三地域協会は、主催ゲームに関してプレーヤーの安全を考慮した年代別(エージ制)、体重制を導入することができる。その他の試合・大会においては、三地域協会の事前の承認の下、主催者が定めるか、当事者間で話し合い、別途定めることができる。

第4条 プレーヤーの服装

1. マウスガードの装着「安全対策・指導措置」(**補足説明を競技規則に記載**)
原則としてプレーヤーはマウスガードを装着するよう努める。(当面の間、各協会及び指導者は、プレーヤーがマウスガードを装着するよう指導する。)
【補足説明】
成長期にあるU-15のプレーヤーにはマウスガード装着による安全対策は欠かせないという認識であり、義務化することが望ましいというのが基本方針です。このため、各地域で準備を進めているのが現状です。また、U-13カテゴリーのプレーヤー、或いはU-14カテゴリーのプレーヤーにおいては、永久歯に生え変わっていない乳歯のある場合、及び歯科矯正などを行っているプレーヤーがいますが、マウスガード装着を推進している歯科委員会の専門医の方々は、このようなケースについては特にマウスガードを装着することによる安全対策とリスク回避が重要との見解です。なお、マウスガードは専門の歯科医で作成することを薦めています。
2. ヘッドギアの着用「安全対策」(**記載文章の一部を変更**)
プレーヤーは試合中ヘッドギアを着用しなければならない。原則としてIRBマークのついたヘッドギアとする。
【補足説明】
規則の変更はありませんが、趣旨を明確にするために2項と3項に分割いたしました。
3. 着用を自粛するもの「指導措置」(**記載文章の一部を変更**)
ヘッドギアのサイズを調節する後頭部のヒモなどの付属品はヘッドキャップ本体と同色、同系色又は黒などとし、華美にすることはできない。
【補足説明】
前項に同じです。

第5条 試合時間

1. 試合時間 (**U-14カテゴリー、U-13カテゴリーの項目を追加**)
U-15カテゴリー、U-14カテゴリーにおける試合時間は40分以内に加えて、ロスタイムとする。試合は、競技時間20分ずつ前後半に分けて行う。
また、U-13カテゴリーの試合時間は30分以内に加えて、ロスタイムとする。試合は、競技時間15分ずつ前後半に分けて行う。
【補足説明】
エージ制の推進によりU-13カテゴリー(中学1年生のみのプレーヤーで構

成するチーム)などの試合が増加しており、当該試合時間を明記いたします。**附則の定義のカテゴリーを参照して下さい。**

2. ハーフタイム
ハーフタイムの休憩時間は5分以内とする。
3. 一時的退出 (シンピン) (新設)
一時的退出は、U-15カテゴリー、及びU-14カテゴリーでは5分間とし、U-13カテゴリーでは4分間とする。

【補足説明】

U-15の試合時間はフルラグビーの概算半分であるため、一時的退出も同比率に該当する時間と考えるのが妥当であり、現実には実施されておりますが、これをより明確にする為に競技規則に明記いたします。

第10条 不正なプレー (新設)

1. 危険なプレー 「安全対策」 罰 **PK** → **〔ELV2は不適用とする。〕**
いずれのプレーヤーもモールへの参加を含む全ての局面において頭を肩や腰より低く(ローヘッド)するプレーをすることはできない。

【補足説明】

U-15のプレーヤーの安全確保を優先し、ELV2は不適用といたしますが、同時に安全対策を強化、確認するため、本競技規則において禁止行為として明記いたします。

第17条 モール (新設)

1. モールの引き倒し 「安全対策」 罰 **PK** → **〔ELV3は不適用とする。〕**
プレーヤーは、モールを引き倒して防御することはできない。

【補足説明】

U-15のプレーヤーの安全確保を優先し、ELV3は不適用といたします。このため、本競技規則において禁止行為として明記いたします。

第19条 タッチおよびラインアウト

1. ラインアウトの形成とラインアウトプレーヤーの人数 罰 **FK** → **〔ELV3は不適用、継続。〕**

ラインアウトはタッチラインより5メートルから15メートル以内で形成し、ラインアウトに並ぶプレーヤー(ラインアウトプレーヤー)は双方2人～5人とする。

【補足説明】

U-15のプレーヤーの習熟度、熟練度を考慮しELV6は不適用とし、本項目を継続します。

2. ラインアウトにおける制限
 - (a) プレーヤーのサポート 罰 **PK** → **〔原則ELV9、10は適用、U15独自ルールは継続〕**

ジャンプする味方のプレーヤーを持ち上げるか、サポートする場合は、後方、正面からを問わずにジャンプするプレーヤーのパンツ(ショーツ)を順手で握ってサポートしなければならない。なお、プレーヤーの太ももを直接サポートすることはできない。サポート、又はリフティングは後方から1名、正面から1名で行う。

【補足説明】

原則としてELV9、10項を適用します。ただし、U15の独自ルールである後方、正面からを問わずにジャンプするプレーヤーのパンツ(ショーツ)を順手で握ってサポートしなければならないことについては継続的に実施いたします。

- (b) プレーヤーを地上におろす 罰 **PK** (記載文章の変更)
サポート、又はリフティングは、跳び上がったプレーヤーの両足が完全に着地するまで続けなければならない。

【補足説明】

原則としてELV10項を適用することによって文章を一部変更いたします。

- (c) ラインアウトの外からのサポート「指導措置」 (継続)
ボールを投入するプレーヤー(スローワー)の相手側(ディフェンス側)のプレーヤーが、タッチラインと5メートルラインの間(ラインアウトの外側)からラインアウトに並んでいる味方のプレーヤー(ラインアウトプレーヤー)をサポートすることはできない。

【補足説明】

ELV8が適用されることによって、実質的に同プレーを行うことができませんが、確認の為、継続的に記載いたします。

《参考としてELV7および8を記載します》

「ラインアウトのレシーバーは、ラインアウトから2m離れなければならない。ボールをスローインするプレーヤーの相手側プレーヤーは、5mラインとタッチラインの間に位置し、5mラインから2m離れなければならない。」

3. ラインアウトプレーヤーの人数 「指導措置」 (継続)

クイックスローイングを除いて、投入側はラインアウトに並ぶプレーヤー(ラインアウトプレーヤー)の人数を相手側に提示し、投入しない側は投入する側の人数に合わせなければならない。レフリーはラインアウトに並ぶプレーヤーの人数を投入側に確認し、投入しない側が人数を合わせるよう指導する。

【補足説明】

U-15のプレーヤーの習熟度、熟練度を考慮しELV6は不適用とし、本項目を継続します。

第20条 スクラム1. プレーヤーの人数 罰 **PK** (記載文章の変更)

スクラムの形成は、双方それぞれ5人のプレーヤーによらなければならない。いかなる場合もこの人数を超えるか、又は減らすことはできない。

【補足説明】

規則の変更はありませんが、記載内容を明確にするために記載文章を変更しています。

2. 安全でしっかりとしたスクラムの形成 「安全対策・指導措置」 (記載文章の一部追加)

双方のフロントローは、膝を充分に曲げ、腰を落とすと同時にしっかりと背中をまっすぐにし、頭を上げたスクラムの正しい姿勢をとる。レフリーはこの姿勢を「クラウチ」の声で確認し、「タッチ」で双方のプロップが確実に相手の上腕にふれるよう指導、「ポーズ(或いはホールド)」で双方が上腕に触れ合っていることを確認、「エンゲージ」で安全、且つしっかりとスクラムを組むよう慎重にコントロールすることとする。プレーヤーは一連の動作を確実にこなさなければならない。

特にU-15カテゴリーでのスクラムは安全を確認した上で、しっかりと組み合うよう指導することとする。

【補足説明】

規則の変更はありませんが、本規則の趣旨を明確にする為、記載文章を一部変更します。

3. ロックのバインド 罰 **PK**

ロックは、お互いが必ずバインドし、外側の腕は必ずプロップの腰をまくように、組まなければならない。

4. スクラムの移動 罰 **FK**

スクラムは原則として押すことはできない。故意ではなく不可抗力によってスクラムが1メートル移動してしまった場合は、元の位置に戻して再びスクラムを組む。

5. スクラムハーフのオフサイド 罰 **PK** (原則ELV11、12は適用、U15独自ルールは継続)

スクラムでのボールを獲得しなかった側のスクラムハーフのオフサイドは以下の通りである。

- (1) スクラムのボール投入側でボールを獲得しなかった側(ディフェンス側)のスクラムハーフは、ボールがスクラム内にある間は、片足でもスクラムのセンターラインを超えた場合は、オフサイドとなる。
- (2) ボールを獲得しなかった側のスクラムハーフがボールの投入側と反対側でディフェンスする場合は、味方チームのスクラムの最後尾の足の位置を越えた場合はオフサイドとなる。
- (3) ボールを獲得しなかった側のスクラムハーフはスクラムから離れることができるが、一度スクラムから離れた位置に動いた場合は、他のバックスと同様に味方スクラムの5m後方にあるオフサイドラインを超えた場合、オフサイドとなる。

【補足説明】

ELV11、12が適用されますので、本項目を変更します。(1)はU15の独自ルールですが、(2)、(3)についてはELV11、12の事項ですので、記載の必要はありませんが、確かな運用を行っていただくために記載するものです。また、スクラムではスクラムに参加しているプレーヤーと当該ハーフを除いた他のプレーヤーは防御側だけでなく、攻撃側も含めてスクラムの最後尾から後方5m離れなければならないことに留意してください。

6. スクラムの終了 罰 **PK**

スクラムの最後尾のプレーヤーが、その足もとにボールがある状態で、バインドをはずしてボールを拾い上げることによってスクラムを終了することはできない。

(a) 故意のプレーの禁止 罰 **PK**

故意にスクラムの中にあるボールをプレーヤーが足で最後尾のプレーヤーの横のスクラム外にボールを出すことによって、スクラムを終了させ、最後尾のプレーヤーがボールを拾い上げることはできない。

(b) スクラム終了後の最後尾のプレーヤーのプレー

但し、故意ではなく、スクラムのトンネル以外からボールがスクラム外に出たことによってスクラムが終了し、その後、最後尾のプレーヤーが最初にボールを拾い上げることはできる。

7. ノンコンテストスクラムの適用「安全対策・指導措置」

以下の場合、安全を優先し、ノンコンテストスクラムを適用する。

フォワードプレーヤーが負傷し、退場による交替、又は負傷による応急処置や治療が終わるまでの一時的交替が必要な場合で、出場するプレーヤーにフォワードプレーヤーがいないか、フォワードの訓練を受けていない場合は、その後、生じたスクラム、或いは負傷したプレーヤーがゲームに復帰するまでの間に生じたスクラムについてはこれを行わず、ノンコンテストスクラムとする。

【補足説明】

規則の変更はありませんが、本規則の趣旨を明確にする為、記載文章を一部変更します。

≪ 附 則 ≫

1. ポジションと呼称

[ポジション配置]

12人制ジュニアラグビーのポジションは、フロントロー3名、セカンドロー2名、スクラムハーフ1名、スタンドオフ1名、センター2名、ウイング2名、フルバック1名からなる

[ポジションの呼称]

呼称は以下の通りとする。

1番レフトプロップ	2番フッカー	3番ライトプロップ
4番レフトロック	5番ライトロック	
	6番スクラムハーフ	
	7番スタンドオフ	
8番レフトウイング	9番レフトセンター	10番ライトセンター
		11番ライトウイング
	12番フルバック	

2. 1日あたりの試合制限「安全対策」(新設)

地域協会、都道府県協会(支部協会)は主催する試合や大会において同一チームに1日2試合を超える試合を提供してはならない。また、当協会に登録している全てのチームは、公式、対外、交流、練習などの如何を問わず、U-15のプレーヤーに対して1人1日2試合を超える試合に参加させてはならない。

【補足説明】

選手の安全を確保し、健全な競技環境を整える為に記載するものです。プレーヤーの傷害事故の受傷状況を検証すると過度な競技時間(試合数)が原因となっている受傷例が散見されています。このような傷害事故を防止する為の措置ですので、ご認識下さい。

3. 定義(新設)

(1) エージ制カテゴリーに関するガイドライン「指導措置」(新設)

U-15(13-15歳時期)のプレーヤーに適用する本競技規則では、原則として以下のエージ制カテゴリーをガイドラインとする。三地域協会、支部(都道府県)協会においては本エージ制カテゴリーを指針とするよう務める。

- ・ U-15カテゴリーとは、中学2、3年生のプレーヤーで構成するチーム、及び当該チームによる試合
- ・ U-14カテゴリーとは、中学1、2年生のプレーヤーで構成するチーム、及び当該チームによる試合
- ・ U-13カテゴリーとは、中学1年生のみのプレーヤーで構成するチーム、及び当該チームによる試合

【補足説明】

近年、各地域や支部協会でもエージ制の導入が推進されていますが、本項でU-15における各カテゴリーを表記し、関係者の方々の意識を統一していただく為にガイドラインとして記載するものです。

(2) ローカルルールに関するガイドライン(新設)

第3条の注意事項では、三地域協会、又は三地域協会の事前の承認の下、支部(都道府県)協会はローカルルールを定めることができるが、本事項はその地域の実情に合わせて特例として認め

るものであり、いかなる場合でもプレーヤーの安全を考慮した決定でなければならない。また、本競技規則に対してローカルルールを優先することはできない。

【補足説明】

本協会では、日本全国で統一したU-15ジュニアラグビー競技規則の解釈と運用をしていただくよう推進しています。一方、前述のとおり本競技規則では、一部の規則についてローカルルールの適用を認めています。しかしながら、ローカルルールは、あくまでその地域の実情では本競技規則に対応できないという特殊事情があり、競技の円滑な運営のために特例として認めているものだとことを認識していただくために記載するものです。当然、ローカルルールが本競技規則に優先することはありません。

第二部 「安全確保・安全対策強化の指導」

「U-15(15-13歳)ジュニアラグビー指導者・関係者、U-15中学生プレーヤーの皆様へ」

U-15(15-13歳)の中学生プレーヤー諸君の安全確保については日頃から選手諸君自身、及び指導者・関係者の方々は管理、あるいは注意されていると認識しておりますが、さらに一層、安全対策を強化していただきたくお願い申し上げます。確認の為、以下に特に注意していただきたい事項を記載いたしますのでご一読の上、周知徹底の程、お願いいたします。また、U-15(15-13歳)の中学生プレーヤー諸君にはよくお読みいただき実行してください。

〔注意〕 安全対策は下記事項の他、重症事故対策本部の安全推進講習会、及び各協会の安全対策委員会、コーチ委員会等から出されている通知、通達、注意事項を十分に考慮して周知徹底の上、厳格履行して下さい。

1. 「プレーヤーの健康管理の徹底」

(1) 健康(体調)管理

プレーヤーは体調不良、特に頭部に違和感、頭痛、記憶が定かでない状況や打撲や圧迫などによる胸痛、腹痛などの兆候が少しでもある場合は、直ちに練習、試合を中止して医師の診断を受ける。指導者はプレーヤーの体調について十分に管理監督する。

(2) 脳しんとう報告と安静期間の遵守

脳震盪(脳しんとう)を起こしたプレーヤーは必ず所属する協会に報告し、医師の許可があるか無いかに関わらず**3週間は練習、及び試合を禁止する。**

(3) 軽度の頭部打撲とその後(二度目の頭部打撲による)の重症事故の危険性

軽い頭部打撲でも医師の診断を受けるよう徹底し、練習を休むなど安静にした上で、経過を慎重に見守ること。最近の事例では最初に軽い頭部打撲を負った後、数日から数週間後に二度目の頭部打撲(脳震盪を含む)を起こし、重症事故(死亡事故)に発展しているケースが観られる。一回目の頭部打撲が軽いか、もしくは自覚症状がほとんどなくても頭部内は大きなダメージを受けている可能性があることに充分留意する。

(4) 熱中症対策

練習、試合に際しては十分に水分補給を行い熱中症の発生を防止する。のどの渇きがあると無いとにかかわらず、練習、試合前には事前にある程度の水分を補給し、練習、試合中ものどの渇きを感じる前に継続的に水分補給を行う。なお、多少、塩分やミネラル入りの水分を補給することが望ましい。

2. 「身体的強化、及び技術的指導による安全確保」

(1) プレーヤーの首、背中、肩、胸、腹などの強化など

指導者、及びプレーヤーは安全確保を重視し、ラグビーを安全におこなうのに必要な、プレーヤーの首を中心に、首に連なる背中・肩、及び胸、腹などの筋力強化、及び股などの柔軟性強化に努め、プレーヤーが以下のプレーを習得できるよう努める。

(注意)

実施にあたっては中学生が成長期であり、骨が柔らかいということを考慮してプレーヤー自身の体重(体を利用した)によるトレーニングに限定して、用具を使っての過度(負荷など)なトレーニングはおこなわないよう注意し、柔軟性を高めることを重視した筋力作りを心がける。

(2) 全てのプレーにおいて

腰よりも頭が下がらないよう充分に注意する。頭が下がるローヘッドは全ての局面で行わない。

(3) スクラム(含むタックル)

膝を十分に曲げ、腰を落とす。背中をまっすぐにし、頭を腰よりも高くする。顔は相手プレーヤーを正面から直視し、スクラム(タックル時もほぼ同じ)の正しい姿勢を作れるよう充分に訓練し、安全でしっかりとしたスクラムが組めるよう努める。(スクラムの段階的な組み方に関しては2008年-2009年U15ジュニアラグビー競技規則を参照して下さい)

(4) タックル 1…タックルするプレーヤー(以下タックラーという)

1. タックラーは相手プレーヤーの動き、走る角度などを確認し、顔を上げて最後まで目を離さずにタックルする。
2. タックラーは逆ヘッドにならないよう充分に注意する。
3. タックラーは頭を下げずに充分に足を踏み込んでタックルする。くれぐれも上半身だけで飛び込むタックルは行わない。
4. タックラーは相手プレーヤーをしっかりとはインドしてタックルする。

5. 以下のタックルは厳に慎む
- × 手だけで相手のジャージをつかんで振り回すタックル
 - × 相手をバインドせずに押し倒すか、突き倒すタックル
 - × あご、顔、頭、肩の上部などの肩よりも高い位置へのタックル(ハイタックル)
 - × 腕を伸ばして相手プレーヤーに打ち付けるタックル(スティファームタックル)
 - × ボールを取る前のプレーヤーに対する早すぎるタックル(アーリータックル)
 - × ボールを蹴るかパスした後のプレーヤーに対する遅すぎるタックル(レイトタックル)
- (5) タックル 2…タックルされるプレーヤー
- タックルされた場合を想定してボールを持った状況であごを引いて背筋を丸める正しい受身の動作ができるよう十分に訓練する。

(2008.8.6、8.19更新)

▲ [ページトップへ](#)